

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成22年2月12日

【四半期会計期間】 第25期第3四半期(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

【会社名】 トランス・コスモス株式会社

【英訳名】 transcosmos inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長兼COO 奥田昌孝

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区渋谷三丁目25番18号

【電話番号】 03-4363-0140

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部担当 本田仁志

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区渋谷三丁目25番18号

【電話番号】 03-4363-0140

【事務連絡者氏名】 執行役員経理財務本部担当 本田仁志

【縦覧に供する場所】 トランス・コスモス株式会社 大阪本部
(大阪府大阪市北区曽根崎二丁目3番5号)
株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

連結経営指標等

回次	第24期 第3四半期 連結累計期間	第25期 第3四半期 連結累計期間	第24期 第3四半期 連結会計期間	第25期 第3四半期 連結会計期間	第24期
会計期間	自 平成20年 4月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 4月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 10月1日 至 平成20年 12月31日	自 平成21年 10月1日 至 平成21年 12月31日	自 平成20年 4月1日 至 平成21年 3月31日
売上高 (百万円)	125,206	112,433	41,550	37,235	166,291
経常利益又は 経常損失 () (百万円)	827	2,401	1,410	605	1,193
四半期(当期)純利益 (百万円)	1,042	1,031	2,109	616	2,201
純資産額 (百万円)			41,658	40,040	39,560
総資産額 (百万円)			97,085	84,738	88,092
1株当たり純資産額 (円)			911.18	900.51	871.39
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	26.35	26.24	53.65	15.67	55.75
潜在株式調整後 1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	26.34				55.13
自己資本比率 (%)			36.9	41.8	38.9
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	91	6,335			4,564
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	6,394	71			7,065
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	9,226	1,698			3,087
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (百万円)			16,980	18,790	14,211
従業員数 (名)			16,442	15,628	16,996

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 第24期第3四半期連結会計期間、第25期第3四半期連結累計期間および第25期第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 主要な経営指標等の推移の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第25期第1四半期連結会計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、第24期第3四半期連結累計期間、第24期第3四半期連結会計期間および第24期についても百万円単位に組替え表示しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結会計期間において、当社グループ（当社および当社の関係会社）において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社につきましても異動はありません。

なお、平成21年3月31日をもちましてコーポレートベンチャーキャピタル事業より撤退したため、第1四半期連結会計期間より事業の種類別セグメント情報は、単一セグメントとなったため、記載を省略しております。

3 【関係会社の状況】

当第3四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(名)	15,628 〔18,037〕
---------	--------------------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は〔 〕内に当第3四半期連結会計期間の平均雇用人員を外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数(名)	9,163 〔13,686〕
---------	-------------------

(注) 1 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数は〔 〕内に当第3四半期会計期間の平均雇用人員（1日8時間換算）を外数で記載しております。

2 臨時従業員数には、パートタイマーおよび嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

第2 【事業の状況】

1 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第3四半期連結会計期間における生産実績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より単一セグメントになったため、情報サービス事業のみ記載しております。

事業の名称	生産高(百万円)	前年同四半期比(%)
情報サービス事業	37,640	91.1
合計	37,640	91.1

(注) 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(2) 受注実績

当第3四半期連結会計期間における受注実績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より単一セグメントになったため、情報サービス事業のみ記載しております。

事業の名称	受注高(百万円)	前年同四半期比(%)	受注残高(百万円)	前年同四半期比(%)
情報サービス事業	33,716	85.3	78,450	93.0
合計	33,716	85.3	78,450	93.0

(注) 金額は、販売価格で表示しており、消費税等は含まれておりません。

(3) 販売実績

当第3四半期連結会計期間における販売実績は、次のとおりであります。なお、第1四半期連結会計期間より単一セグメントになったため、情報サービス事業のみ記載しております。

事業の名称	販売高(百万円)	前年同四半期比(%)
情報サービス事業	37,235	90.3
合計	37,235	90.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2 【事業等のリスク】

当第3四半期連結会計期間において、財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況の異常な変動等または、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

4 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 経営成績の分析

当第3四半期におけるわが国経済は、アジア向け輸出を中心に貿易・サービス収支の経常黒字が増加し、また緊急経済対策の効果もあって一部個人消費の回復の兆しがでてきました。一方、円高とデフレ進行による「二重苦」で企業の設備投資は減少、雇用・所得環境も依然として低迷しており、自律的な景気回復までには至らず全体としては不安定な状態が続いています。海外では、中国、インドなど新興国を中心に急速に経済成長を高めており、米欧でも雇用環境は依然厳しい状況が続いているものの、景気刺激政策の効果もあって持ち直しつつあります。

このような経済環境のもと、情報サービス業界においては、引き続き企業のIT投資凍結の影響もあって需要減少が続いており、特にエンジニア派遣やITアウトソーシングなどを展開しているビジネスプロセスアウトソーシングサービス事業でその影響を大きく受けました。一方、顧客サポート業務は企業にとって必要不可欠な業務であり、また通販業界を中心にインターネットを利用したマーケティング活動で効率化・売上拡大を図る動きが広がりつつあるなど、コールセンターサービス、デジタルマーケティングサービス事業分野における需要は比較的安定しています。

このような事業環境の中、当社グループでは、新たな需要に備えたサービス体制の強化に努めました。政府当局による経済対策、業界再編による法改正など新たな需要に加え、企業の凍結していたIT投資の再開などを見据えた中長期での需要拡大に備えるなど、外部環境の変化に鋭敏に対応するための業種・業務特化型サービスを拡充し、競争力強化に努めています。

また、引き続きグループ再編を含めた「事業の選択と集中」を推進しており、この一環として昨年度に実施したコーポレートベンチャーキャピタル事業からの撤退効果もあって、一時的に売上規模は減少したものの、一定の収益性を確保することができました。

以上のような状況のもと、当第3四半期連結会計期間の業績は、売上高37,235百万円となり前年同四半期比10.4%の減収となりました。利益につきましては、事業の選択と集中、コスト構造改革などの諸施策の効果もあり、営業利益は592百万円(前年同四半期は営業損失1,173百万円)、経常利益は605百万円(前年同四半期は経常損失1,410百万円)となりました。また、前年同四半期に比べ、当社における税務上の一時差異による税効果の計上が大幅に減少したことにより、四半期純利益は616百万円となり前年同四半期比70.8%の減益となりました。

所在地別セグメントの当第3四半期連結会計期間の業績は、次のとおりであります。

国内につきましては、売上高は34,748百万円となり前年同四半期比10.8%の減収となりました。主な要因といたしましては、ビジネスプロセスアウトソーシングサービス事業の減収によるものであります。営業利益は、コスト削減の効果もあり前年同四半期比23.2%増益の2,225百万円となりました。

米国につきましては、コーポレートベンチャーキャピタル事業が撤退したことにより、売上高は62百万円となり前年同四半期比81.3%の減収となりました。利益につきましては、同事業の撤退により営業損失5百万円(前年同四半期は営業損失1,810百万円)となりました。

アジアにつきましては、当四半期は韓国を中心にコールセンターの受注が牽引役となり売上高は2,424百万円となり前年同四半期比8.3%の増収となりました。利益につきましては、オフショア事業の利益率の低下から営業損失62百万円(前年同四半期は営業損失30百万円)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ3,354百万円減少し84,738百万円となりました。このうち流動資産につきましては、2,163百万円減少し、47,884百万円となりました。これはコーポレートベンチャーキャピタル事業の撤退による営業投資有価証券(流動資産)から投資有価証券(投資その他の資産)への振替および売掛金の減少が主な要因であります。固定資産につきましては、1,191百万円減少し、36,853百万円となりました。これは、主に有形・無形固定資産の減少によるものであります。

また、負債の部につきましては、前連結会計年度末に比べ3,834百万円減少し、44,697百万円となりました。これは、主に当社における借入金の返済や社債の償還等による減少であります。

純資産の部につきましては、前連結会計年度末に比べ479百万円増加し、40,040百万円となり、自己資本比

率は、41.8%となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結会計期間におけるキャッシュフローの状況は次のとおりであります。

営業活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ2,581百万円収入が増加し1,137百万円の収入となりました。この主な要因は、税金等調整前四半期純利益の増加と法人税等の支払額の減少によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ2,003百万円収入が増加し616百万円の収入となりました。この主な要因は、投資有価証券の売却による収入の増加と差入保証金の差入による支出が減少したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、前年同四半期と比べ5,421百万円収入が減少し506百万円の支出となりました。この主な要因は、短期借入れによる収入の減少等によるものであります。

以上の結果、現金及び現金同等物の当第3四半期連結会計期間末残高は、前年同四半期末と比べ1,810百万円増加し18,790百万円となりました。

(4) 事業上および財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結会計期間において、連結会社の事業上および財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は財務および事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（旧会社法施行規則第127条各号に掲げる事項）は次のとおりです。

1 基本方針の内容

当社は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者は、当社の企業価値の源泉を理解し、当社が企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に確保、向上していくことを可能とする者である必要があると考えております。当社は、当社の支配権の移転を伴う買収提案がなされた場合、その判断は最終的には株主全体の意思に基づき行われるべきものと考えております。また、当社株式について大量買付がなされた場合、これが当社の企業価値ひいては株主共同の利益の確保・向上に資するものであれば、これを否定するものではありません。しかしながら、株式の大量買付の中には、その目的等から見て企業価値・株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれがあるもの、対象会社の取締役会や株主が株式の大量買付の内容等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないもの、対象会社が買収者の提示した条件よりも有利な条件をもたらすために買収者との交渉を必要とするもの等、大量買付の対象となる会社の企業価値・株主共同の利益に資さないものも少なくありません。

当社の企業価値は、お客様の満足度の大きさに価値を置き、企業価値の維持・向上に努めております。当社の企業価値の源泉は、(ア) 情報処理アウトソーシングビジネスの先駆けとして創業以来蓄積してきた総合的な「技術力」、(イ) 環境変化に即応し最新技術を創意工夫で融合させていくことのできる「人」の存在、(ウ) 独立系企業としての強みを生かして構築された様々な「顧客との間の安定的・長期的な信頼関係」、にあると考えております。当社株式の買付を行う者がこれら当社の企業価値の源泉を理解し、これらの中長期的に確保し、向上させられるのでなければ、当社の企業価値ひいては株主共同の利益は毀損されることとなります。当社は、このような濫用的な買収に対しては、必要かつ相当な対抗措置を講じることにより、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保する必要があると考えております。

2 基本方針実現のための取組みの具体的な内容

(a) 基本方針の実現に資する特別な取組みの具体的な内容の概要

(中期経営計画等)

当社は、当社の企業価値の源泉を踏まえ、創業以来、一貫して標榜してきた「顧客第一主義」という理念のもと、以下の諸施策に取り組むことで当社の企業価値ひいては株主共同の利益向上を図ってまいります。

(i) グローバル化市場でのサービスの提供

当社は1995年に初めて中国市場に進出し、高品質・低コストでのシステム開発（オフショアリング開発）事業へ参入したのを皮切りに、現地向けのコールセンター、デジタルマーケティング、ビジネスプロセスアウトソーシング等グローバル市場でのサービス体制の構築・展開を加速させております。とくに

コア事業であるコールセンターサービスのグローバル化を推進し、中国、韓国、タイ、フィリピン等にコールセンター拠点を設け、アジア主要10言語に対応する『グローバルコールセンターサービス』の提供を開始する等、ますます顧客志向がグローバル化していくことに備え、グローバルでの競争力強化に取り組んでまいります。

(ii) 業種・業務に特化したサービスの提供

法改正等に代表されるとおり企業を取り巻く環境は刻一刻と変化しつづけております。この変化とともにアウトソーシングニーズはますます多様化してきており、また業種特有の課題がより多く顕在化してきております。当社は、多様化しているニーズに総合的に対応していくため、「業界別営業体制」を採用しております。各業界・業種のプロフェッショナルである「人」と「技術力」を用意し、どの業界のお客様企業にも最適なサービスを提供できるように、より一層のサービス体制の強化に取り組んでまいります。

(iii) グループ各社との連携による高付加価値・高品質なサービスの提供

当社は、当社が持つ独自サービスに加え、分析力、技術力といったそれぞれの分野で高い専門性を持つ企業も多く抱えております。このようなグループ各社との連携を深め、当社の「人」による運用力をベースに高い事業シナジーを創出し続けていくことで、より高付加価値・高品質なサービス提供を実現していくとともに、独自性と総合力でコスト競争力強化に取り組んでまいります。

(コーポレート・ガバナンスの強化)

当社は、透明性の高い公正な経営を実現すべく、取締役の任期を1年とし、平成21年6月25日付第24回定時株主総会の後においては、10名の取締役のうち3名を独立性のある社外取締役とすることにより経営に対する監視機能の強化を図っております。また、意思決定の迅速化による事業環境変化への対応力強化をはかるため執行役員制を導入しております。監査役につきましては、平成21年6月25日付第24回定時株主総会の後においては、社外監査役2名を含む4名により監査役会を構成し、取締役会等の重要な会議に出席するほか、当社および国内外子会社への監査を実施し、取締役の職務執行の監査を行っております。

(b) 基本方針に照らして不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止するための取組みの具体的な内容の概要

(i) 当社は、平成21年5月20日付取締役会決議および平成21年6月25日付第24回定時株主総会決議に基づき当社株式の大量取得行為に関する対応策（買収防衛策）（以下「本プラン」といいます。）を、平成21年7月1日をもって導入することといたしました。本プランの概要については、下記(ii)のとおりであります。

(ii) 本プランの概要

ア 本プランの目的

当社取締役会は、基本方針に定めるとおり、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資さない当社株式の大量買付を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として不適切であると考えております。本プランは、こうした不適切な者によって当社の財務及び事業の方針の決定が支配されることを防止し、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に反する大量買付を抑止するため、当社株式に対する大量買付が行われる際に、当社取締役会が株主の皆様が代替案を提案したり、あるいは株主の皆様がかかる大量買付に応じるべきか否かを判断するために必要な情報や時間を確保すること、株主の皆様のために交渉を行うこと等を可能とすることを目的としております。

イ 対象となる買付等

本プランは、下記（ア）または（イ）に該当する当社株券等の買付その他の取得もしくはこれに類似する行為またはこれらの提案（第三者に対して買付等を勧誘する行為を含みます。但し、当社取締役会が本プランを適用しない旨別途認めたものを除くものとし、以下「買付等」といいます。）がなされる場合を適用対象といたします。

（ア）当社が発行者である株券等について、保有者の株券等保有割合が20%以上となる買付その他の取得

（イ）当社が発行者である株券等について、公開買付を行う者の株券等所有割合およびその特別関係者の株券等所有割合の合計が20%以上となる公開買付

ウ 本プランの発動に係る手続

買付等を行おうとする者（以下「買付者等」といいます。）は、買付等の開始または実行に先立ち、別途当社の定める書式により、本プランの手続を遵守する旨の誓約文言等を含む書面等を当社に対して提出して頂くとともに、当社が交付した書式に従い、株主の皆様の判断等のために必要な所定の情報を記載し

た書面（以下「買付説明書」といいます。）を当社取締役会に対して提出していただきます。当社取締役会は、買付説明書を受領した場合、速やかにこれを独立委員会に送付いたします。

独立委員会は、当該買付説明書の記載内容が必要情報として不十分であると判断した場合には、買付者等に対し、適宜回答期限を定め、追加的に情報を提供するように求めることがあります。また、独立委員会は、買付者等および当社取締役会からの情報等（追加的に提供を求めたものも含まれます。）を受領してから原則として最長60日間が経過するまでの間、買付等の内容の検討、買付者等と当社取締役会の経営計画・事業計画等に関する情報収集・比較検討、当社取締役会の提供する代替案の検討、買付者等との協議・交渉等を行います。

その上で、独立委員会は、買付等について、下記工において定められる発動事由に該当すると判断した場合、原則として、当社取締役会に対して、本プランの発動として新株予約権の無償割当てを実施することを勧告いたします。なお、独立委員会は、下記工において定められる発動事由のうち発動事由その2（以下、「発動事由その2」といいます。）の該当可能性が問題となっている場合には、予め新株予約権の無償割当ての実施に関して株主意思の確認を得るべき旨の留保を付すことができるものといたします。

また、当社取締役会は、本プランに従った新株予約権の無償割当てを実施するに際して、(i)独立委員会が新株予約権の無償割当ての実施に際して予め株主総会の承認を得るべき旨の留保を付した場合、または(ii)ある買付等について発動事由その2の該当可能性が問題となっており、かつ、取締役会が、株主総会の開催に要する時間等を勘案した上で、善管注意義務に照らし、株主意思を確認することが適切と判断する場合には、株主総会を招集し、新株予約権の無償割当ての実施に関する株主の皆様意思を確認することができます。

当社取締役会は、上記の独立委員会の勧告を最大限尊重して新株予約権無償割当ての実施または不実施に関する決議を行い、また、上記の株主総会の決議が存する場合には、その決議に従います。

エ 新株予約権の無償割当ての要件

本プランを発動して新株予約権の無償割当てを実施するための要件は、下記のとおりです。

記

発動事由その1

本プランに定められた手続に従わない買付等であり（買付等の内容を判断するために合理的に必要とされる時間や情報の提供がなされない場合を含みます。）、かつ新株予約権の無償割当てを実施することが相当である場合

発動事由その2

下記のいずれかに該当し、かつ新株予約権の無償割当てを実施することが相当である場合

(a) 下記に掲げる行為等により、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのある買付等である場合

株券等を買占め、その株券等について当社側に対して高値で買取りを要求する行為

当社の経営を一時的に支配して、当社の重要な資産等を廉価に取得する等当社の犠牲の下に買付者等の利益を実現する経営を行うような行為

当社の資産を買付者等やそのグループ会社等の債務の担保や弁済原資として流用する行為

当社の経営を一時的に支配して、当社の事業に当面関係していない高額資産等を処分させ、その処分利益をもって、一時的な高配当をさせるか、一時的な高配当による株価の急上昇の機会をねらって高値で売り抜ける行為

(b) 強圧的二段階買付（最初の買付で全株式の買付を勧誘することなく、二段階目の買付条件を不利に設定し、あるいは明確にしないで、公開買付け等の株式買付を行うことをいいます。）等株主に株式の売却を事実上強要するおそれのある買付等である場合

(c) 買付等の条件（対価の価額・種類、時期、方法の適法性、実現可能性、または買付等の後における当社の他の株主、従業員、顧客、取引先その他当社に係る利害関係者に対する方針等を含みます。）が当社の本源的価値に鑑み不十分または不適当な買付等である場合

(d) 当社の企業価値を生み出す上で必要不可欠な「仕組み（人と技術力の融合）」や当社の従業員、顧客、取引先等との関係を損なうこと等により、当社の企業価値または株主共同の利益に反する重大なおそれをもたらす買付等である場合

オ その他

本プランに従い株主の皆様に対して割当てられる予定の新株予約権は、1円を下限とし当社株式1株の時価の2分の1の金額を上限とする金額の範囲内で当社取締役会または株主総会が別途決定した金額を

払い込むことにより行使することができ、かかる行使により原則として普通株式1株を取得することができます。また、買付者等およびその関係者による権利行使は原則として認められないという行使条件、および当社が買付者等およびその関係者以外の者から当社株式1株と引換えに新株予約権1個を取得することができる旨の取得条項が付されております。

本プランの有効期間は、平成21年7月1日から第24回定時株主総会終結後3年以内に終了する事業年度のうち最終のものに関する定時株主総会終結の時までとします。但し、有効期間の満了前であっても、当社株主総会において本プランに係る新株予約権の無償割当てに関する事項の決定についての取締役会への委任を撤回する旨の決議が行われた場合、または当社取締役会において本プランを廃止する旨の決議が行われた場合には、本プランはその時点で廃止されるものといたします。

3 具体的取組みに対する当社取締役会の判断及びその理由

当社の中期経営計画およびコーポレート・ガバナンスの強化等の各施策は、当社グループの企業価値ひいては株主共同の利益を継続的かつ持続的に向上させるための具体的方策として策定されたものであり、まさに当社の基本方針に沿うものであります。

また、本プランは、当社株式に対する買付等が行われた際に、当社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保するための枠組みであり、基本方針に沿うものです。また、導入に当たり株主の皆様の承認を得ていること、一定の場合には本プランの発動の是非について株主の皆様の意思を確認する仕組みが設けられていること、有効期間が約3年と定められており、いわゆるサンセット条項が付されていること、および有効期間の満了前であっても、当社の株主総会または取締役会によりいつでも本プランを廃止できるとされていること等株主意思を重視するものとなっております。さらに、本プランの発動に関する合理的な客観的要件が設定されていること、経営陣からの独立性を有する社外取締役等によって構成される独立委員会が設置され、本プランの発動に際しては必ず独立委員会の判断を経ることが必要とされていること、独立委員会は当社の費用で第三者専門家等を利用し助言を受けることができるとされていること、当社取締役の任期は1年とされていること等により、その公正性・客観性も担保されております。

したがって、本プランは、当社の企業価値ひいては株主共同の利益に資するものであって、当社の会社役員としての地位の維持を目的とするものではありません。

以上

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結会計期間の研究開発費の総額は、262百万円であります。

第3 【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第3四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第3四半期連結会計期間において、新たに確定した重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	150,000,000
計	150,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成21年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成22年2月12日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	48,794,046	48,794,046	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株 であります。
計	48,794,046	48,794,046		

(注) 提出日現在発行数には、平成22年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。

(2) 【新株予約権等の状況】

新株予約権

株主総会の特別決議日(平成16年6月29日)	
第3四半期会計期間末現在 (平成21年12月31日)	
新株予約権の数	965個
新株予約権のうち自己新株予約権の数	
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	193,000株
新株予約権の行使時の払込金額	1株当たり1,611円
新株予約権の行使期間	平成18年7月1日から平成22年6月30日まで
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額	発行価格 1,611円 資本組入額 806円
新株予約権の行使の条件	各新株予約権の一部行使はできないものとする。 新株予約権の割り当てを受けた者は、当社および当社子会社の役員および従業員ならびに顧問の地位を失った場合、新株予約権返還事由が生じる事となり、会社に新株予約権を返還する事とする。また、新株予約権の割り当てを受けた者が死亡した場合は、相続はできない。 その他の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に関する事項	新株予約権を譲渡するには、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する事項	
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	

(注) 1 上記の新株予約権は平成13年改正旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づくものであります。

2 新株予約権1個当たりの株式数は200株であります。

3 当社が当社普通株式につき株式分割または株式併合を行う場合には、各新株予約権の目的たる株式の数を次の算式により調整されるものとする。

$$\text{調整後株式数} = \text{調整前株式数} \times \text{分割・併合の比率}$$

また、当社が合併する場合、会社分割を行う場合、資本減少を行う場合、その他これらに準じて各新株予約権の目的たる株式の数を調整すべき場合にも、必要かつ合理的な範囲内で、各新株予約権の目的たる株式の数は適切に調整されるものとする。

なお、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。

4 発行日以降、当社普通株式の分割または併合を行う場合、行使価額は次に定める算式により、調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社普通株式につき時価を下回る価額で新株を発行または自己株式を処分する(新株予約権の行使並びに「商法等の一部を改正する法律」(平成13年法律第128号)の施行前の商法に基づく商法第280条ノ19に規定する新株引受権の行使の場合を除く。)場合、行使価額は次に定める算式により、調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1 \text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

また、当社が資本の減少、合併または会社分割を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併または会社分割の条件等を勘案の上、合理的な範囲内で、行使価額を調整するものとする。

5 平成18年2月14日開催の取締役会決議に基づき、平成18年4月1日付をもって普通株式1株を2株に分割したことにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」および「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額」が調整されております。

株主総会の特別決議日(平成17年6月29日)	
第3四半期会計期間末現在 (平成21年12月31日)	
新株予約権の数	1,128個
新株予約権のうち 自己新株予約権の数	
新株予約権の目的と なる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的と なる株式の数	225,600株
新株予約権の行使時の 払込金額	1株当たり2,270円
新株予約権の行使期間	平成19年7月1日から平成23年6月30日まで
新株予約権の行使によ り株式を発行する場 合の株式の発行価格お よび資本組入額	発行価格 2,270円 資本組入額 1,135円
新株予約権の行使の 条件	各新株予約権の一部行使はできないものとする。 新株予約権の割り当てを受けた者は、当社および当社子会社の役員および従業員なら びに顧問の地位を失った場合、新株予約権返還事由が生じる事となり、会社に新株予 約権を返還する事とする。また、新株予約権の割り当てを受けた者が死亡した場 合は、相続はできない。 その他の条件については、「新株予約権割当契約書」に定めるところによる。
新株予約権の譲渡に 関する事項	新株予約権を譲渡するには、当社取締役会の承認を要する。
代用払込みに関する 事項	
組織再編成行為に 伴う新株予約権の 交付に関する事項	

- (注) 1 上記の新株予約権は平成13年改正旧商法第280条ノ20および第280条ノ21の規定に基づくものであります。
- 2 新株予約権1個当たりの株式数は200株であります。
- 3 当社が当社普通株式につき株式分割または株式併合を行う場合には、各新株予約権の目的たる株式の数を次の算式により調整されるものとする。
- 調整後株式数 = 調整前株式数 × 分割・併合の比率
- また、当社が合併する場合、会社分割を行う場合、資本減少を行う場合、その他これらに準じて各新株予約権の目的たる株式の数を調整すべき場合にも、必要かつ合理的な範囲内で、各新株予約権の目的たる株式の数は適切に調整されるものとする。
- なお、調整の結果生じる1株未満の端数は切り捨てる。
- 4 発行日以降、当社普通株式の分割または併合を行う場合、行使価額は次に定める算式により、調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

また、当社普通株式につき時価を下回る価額で新株を発行または自己株式を処分する(新株予約権の行使並びに「商法等の一部を改正する法律」(平成13年法律第128号)の施行前の商法に基づく商法第280条ノ19に規定する新株引受権の行使の場合を除く。)場合、行使価額は次に定める算式により、調整されるものとし、調整により生じる1円未満の端数はこれを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times \text{1株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}$$

また、当社が資本の減少、合併または会社分割を行う場合等、行使価額の調整を必要とするやむを得ない事由が生じたときは、資本減少、合併または会社分割の条件等を勘案の上、合理的な範囲内で、行使価額を調整するものとする。

- 5 平成18年2月14日開催の取締役会決議に基づき、平成18年4月1日付をもって普通株式1株を2株に分割したことにより、「新株予約権の目的となる株式の数」、「新株予約権の行使時の払込金額」および「新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格および資本組入額」が調整されております。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成21年12月31日		48,794		29,065		

(5) 【大株主の状況】

当第3四半期会計期間において、大株主の異動は把握しておりません。

(注) 下記の法人から平成21年4月22日付で関東財務局長に提出された大量保有報告書に係る変更報告書により、平成21年4月15日現在で以下の株式を所有している旨の報告を受けておりますが、当社として当第3四半期会計期間末における当該法人名義の実質所有株式数の確認ができておりません。

氏名又は名称	住所	所有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
Dalton Investments LLC	12424 Wilshire Boulevard, Suite 600, Los Angeles, CA 90025, U.S.A.	2,310	4.74

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができませんので、直前の基準日である平成21年9月30日の株主名簿により記載しております。

【発行済株式】

平成21年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 9,480,300		
完全議決権株式(その他)	普通株式 39,302,000	393,020	
単元未満株式	普通株式 11,746		
発行済株式総数	48,794,046		
総株主の議決権		393,020	

(注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が9,700株(議決権97個)含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式83株が含まれております。

【自己株式等】

平成21年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) トランス・コスモス 株式会社	東京都渋谷区渋谷3-25-18	9,480,300		9,480,300	19.4
計		9,480,300		9,480,300	19.4

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高(円)	695	965	1,175	1,200	1,297	1,064	930	865	778
最低(円)	463	618	889	941	1,015	811	754	683	699

(注) 株価は、東京証券取引所市場第一部における株価を記載しております。

3 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期報告書提出日までにおいて、役員の異動はありません。

第5 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。)に基づいて作成しております。

なお、前第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)および前第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)および当第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)および前第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表並びに当第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)および当第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

3 金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に掲記される科目、その他の事項の金額については、従来、千円単位で記載しておりましたが、第1四半期連結会計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。

なお、比較を容易にするため、前連結会計年度および前第3四半期連結会計(累計)期間についても百万円単位に組替え表示しております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	19,347	14,646
受取手形及び売掛金	23,011	24,367
営業投資有価証券	-	5,133
商品及び製品	242	259
仕掛品	873	662
貯蔵品	46	17
繰延税金資産	2,500	1,880
その他	2,011	3,275
貸倒引当金	147	195
流動資産合計	47,884	50,047
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1 4,312	1 5,032
工具、器具及び備品(純額)	1 4,057	1 4,551
土地	1,151	1,146
その他(純額)	1 240	1 947
有形固定資産合計	9,761	11,678
無形固定資産		
のれん	3 1,180	3 1,546
ソフトウェア	4,483	2,375
その他	385	3,285
無形固定資産合計	6,048	7,207
投資その他の資産		
投資有価証券	5,024	956
関係会社株式	4,485	4,504
その他の関係会社有価証券	52	96
出資金	4	7
関係会社出資金	377	383
繰延税金資産	3,923	5,138
差入保証金	4,972	5,423
その他	2,613	3,026
貸倒引当金	411	379
投資その他の資産合計	21,042	19,158
固定資産合計	36,853	38,044
資産合計	84,738	88,092

(単位：百万円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,393	4,786
短期借入金	2 1,479	2 4,799
1年内償還予定の社債	1,068	846
1年内返済予定の長期借入金	8,042	682
未払金	2,109	3,063
未払費用	5,968	5,280
未払法人税等	220	376
未払消費税等	1,507	1,565
賞与引当金	1,491	3,133
その他	1,823	1,332
流動負債合計	28,103	25,867
固定負債		
社債	2,900	3,700
長期借入金	12,514	18,209
退職給付引当金	154	116
その他	1,024	637
固定負債合計	16,593	22,663
負債合計	44,697	48,531
純資産の部		
株主資本		
資本金	29,065	29,065
資本剰余金	23,005	23,009
利益剰余金	5,153	4,155
自己株式	19,740	19,749
株主資本合計	37,484	36,482
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	209	407
繰延ヘッジ損益	4	4
為替換算調整勘定	2,287	2,631
評価・換算差額等合計	2,082	2,228
新株予約権	-	0
少数株主持分	4,638	5,306
純資産合計	40,040	39,560
負債純資産合計	84,738	88,092

(2)【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
売上高	125,206	112,433
売上原価	103,183	91,887
売上総利益	22,022	20,545
販売費及び一般管理費	¹ 22,337	¹ 18,037
営業利益又は営業損失()	314	2,508
営業外収益		
受取利息	106	57
受取配当金	20	14
為替差益	48	-
デリバティブ評価益	-	81
助成金収入	114	399
その他	230	139
営業外収益合計	520	692
営業外費用		
支払利息	307	376
為替差損	-	151
持分法による投資損失	449	103
デリバティブ評価損	74	-
その他	201	166
営業外費用合計	1,033	798
経常利益又は経常損失()	827	2,401
特別利益		
固定資産売却益	9	97
関係会社株式売却益	-	453
貸倒引当金戻入額	3	38
持分変動利益	171	0
その他	131	550
特別利益合計	315	1,140
特別損失		
固定資産売却損	28	1
固定資産除却損	134	158
減損損失	1,698	563
関係会社株式評価損	340	3
持分変動損失	98	111
その他	1,361	1,248
特別損失合計	3,660	2,086
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	4,172	1,455
法人税、住民税及び事業税	398	211
法人税等調整額	5,178	639
法人税等合計	4,779	851
少数株主損失()	435	426
四半期純利益	1,042	1,031

【第3四半期連結会計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
売上高	41,550	37,235
売上原価	35,098	30,865
売上総利益	6,452	6,369
販売費及び一般管理費	1 7,625	1 5,776
営業利益又は営業損失()	1,173	592
営業外収益		
受取利息	26	12
受取配当金	6	0
為替差益	19	-
助成金収入	80	263
その他	53	36
営業外収益合計	185	312
営業外費用		
支払利息	115	130
為替差損	-	2
持分法による投資損失	276	27
デリバティブ評価損	4	83
その他	25	56
営業外費用合計	422	299
経常利益又は経常損失()	1,410	605
特別利益		
固定資産売却益	1	18
関係会社株式売却益	-	274
賞与引当金戻入額	361	158
債務免除益	-	170
その他	87	199
特別利益合計	450	822
特別損失		
固定資産売却損	1	0
固定資産除却損	37	5
減損損失	1,409	58
投資有価証券評価損	-	63
関係会社株式評価損	39	3
持分変動損失	8	-
その他	1,054	51
特別損失合計	2,550	182
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	3,510	1,245
法人税、住民税及び事業税	465	73
法人税等調整額	4,890	680
法人税等合計	5,356	754

	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
少数株主損失()	262	124
四半期純利益	2,109	616

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	4,172	1,455
減価償却費	2,161	1,993
減損損失	1,698	563
のれん償却額	436	338
無形固定資産償却費	1,009	1,156
賞与引当金の増減額(は減少)	1,424	1,641
貸倒引当金の増減額(は減少)	719	40
退職給付引当金の増減額(は減少)	106	230
受取利息及び受取配当金	127	71
支払利息	307	376
為替差損益(は益)	48	151
持分法による投資損益(は益)	449	103
関係会社株式売却損益(は益)	1	429
関係会社株式評価損	340	3
持分変動損益(は益)	73	110
固定資産除却損	134	158
売上債権の増減額(は増加)	2,011	1,194
営業投資有価証券の増減額(は増加)	20	-
営業投資有価証券評価損	2,315	-
投資有価証券売却損益(は益)	10	155
たな卸資産の増減額(は増加)	33	220
仕入債務の増減額(は減少)	1,881	338
その他	196	1,429
小計	3,488	6,450
利息及び配当金の受取額	150	72
利息の支払額	304	380
法人税等の支払額	3,242	365
法人税等の還付額	-	559
営業活動によるキャッシュ・フロー	91	6,335

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の預入による支出	96	307
定期預金の払戻による収入	297	174
有形固定資産の取得による支出	2,553	646
無形固定資産の取得による支出	2,137	720
投資有価証券の取得による支出	142	98
投資有価証券の売却による収入	76	679
投資有価証券の償還による収入	-	32
関係会社株式の取得による支出	546	-
関係会社株式の売却による収入	13	284
関係会社の整理による収入	-	33
少数株主からの株式の購入による支出	617	274
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	302	-
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による支出	22	179
差入保証金の差入による支出	802	88
差入保証金の回収による収入	64	535
その他の支出	261	153
その他の収入	636	656
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,394	71
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	72,409	9,700
短期借入金の返済による支出	63,288	13,017
長期借入れによる収入	4,000	2,522
長期借入金の返済による支出	61	297
自己株式の取得による支出	1,993	0
自己株式の売却による収入	31	5
社債の発行による収入	4,500	-
社債の償還による支出	5,199	568
配当金の支払額	1,639	-
少数株主への配当金の支払額	0	0
少数株主からの払込みによる収入	470	-
その他	-	41
財務活動によるキャッシュ・フロー	9,226	1,698
現金及び現金同等物に係る換算差額	823	13
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	2,099	4,578
現金及び現金同等物の期首残高	14,821	14,211
連結の範囲の変更に伴う現金及び現金同等物の増減額(は減少)	59	-
現金及び現金同等物の四半期末残高	16,980	18,790

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更】

	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)
1 連結の範囲に関する事項の変更	<p>(1) 連結の範囲の変更</p> <p>当第3四半期連結累計期間の連結子会社の異動は次の通りであります。</p> <p>(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無錫特朗思大宇宙信息技术服务有限公司(平成21年5月7日設立) <p>(除外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・デジット株式会社(全保有株式売却) ・ラルクCCP9投資事業組合(平成21年4月30日清算終了) ・ラルクCCP10投資事業組合(平成21年4月30日清算終了) ・BPS株式会社(平成21年4月30日清算終了) ・SMART LUCK ENTERPRISES LIMITED(全保有株式売却) ・太公網(北京)信息咨询有限公司(持株会社であるSMART LUCK ENTERPRISES LIMITEDの全保有株式売却による) ・北京太公網科技発展有限公司(持株会社であるSMART LUCK ENTERPRISES LIMITEDの全保有株式売却による) ・アバカス・ジャパン株式会社(平成21年6月26日清算終了) ・オーガニック・トレンド・インターナショナル株式会社(全保有株式売却) ・Inwoo Tech, Inc.(当社子会社であるCIC Korea, Inc.と合併) ・OneXeno Limited(全保有株式売却) ・ピカム株式会社(全保有株式売却) ・株式会社フレーパー(株主所有会社であるピカム株式会社の全保有株式売却による) ・IBR, Inc.(平成21年9月21日清算終了) ・トランスコスモスシー・アール・エム札幌株式会社(平成21年10月26日清算終了) ・CinemaNow Japan株式会社(平成21年12月29日清算終了) <p>(2) 変更後の連結子会社の数 56社</p>
2 持分法の適用に関する事項の変更	<p>当第3四半期連結累計期間の持分法適用会社の異動は次の通りであります。</p> <p>(新規)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オートックワン株式会社 ・Pheedo, Inc. <p>上記2社は、コーポレートベンチャーキャピタル事業の撤退に伴い営業投資有価証券から関係会社株式へ振替となりました。</p> <p>(除外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマートティップス株式会社(全保有株式売却) ・HUNUS INVESTMENT CO., LTD.(議決権比率の減少により持分法適用会社より除外) ・ネットスイート株式会社(全保有株式売却)
3 連結子会社の事業年度等に関する事項の変更	<p>当第3四半期連結累計期間に連結子会社となった無錫特朗思大宇宙信息技术服务有限公司の決算日は、12月31日であります。連結財務諸表作成にあたっては、9月30日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。</p>

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)	
4 会計処理基準に関する事項の変更	<p>(1)完成工事高及び完成工事原価の計上基準の変更 請負工事に係る収益の計上基準については、従来、工事完成基準を適用しておりましたが、「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号平成19年12月27日)を第1四半期連結会計期間より適用し、第1四半期連結会計期間に着手した工事契約から、当第3四半期連結会計期間末までの進捗部分について成果の確実性が認められる工事については工事進行基準(工事の進捗率の見積りは原価比例法)を、その他の工事については工事完成基準を適用しております。 これにより、当第3四半期連結累計期間の売上高は286百万円、売上総利益、営業利益、経常利益および税金等調整前四半期純利益は111百万円それぞれ増加しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p> <p>(2)在外子会社等の収益及び費用の換算基準の変更 在外子会社等の収益及び費用については、従来、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均の直物為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。この変更は、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を軽減し、より適正な期間損益の認識を図るために行ったものであります。 この結果、従来の方法によった場合に比べて、当第3四半期連結累計期間の売上高は122百万円、営業利益は7百万円、経常利益は11百万円、税金等調整前四半期純利益は12百万円それぞれ減少しております。 なお、セグメント情報に与える影響は、当該箇所に記載しております。</p>

【表示方法の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)	
(四半期連結損益計算書関係)	<p>特別利益の「関係会社株式売却益」は、前第3四半期連結累計期間では特別利益の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結累計期間において特別利益総額の100分の20を超えたため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結累計期間の「関係会社株式売却益」は6百万円であります。</p>

当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日至平成21年12月31日)	
(四半期連結貸借対照表関係)	<p>1. 流動資産の「繰延税金資産」は、前第3四半期連結会計期間末では流動資産の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間末において金額の重要性が増したため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間末の「繰延税金資産」は893百万円であります。</p> <p>2. 無形固定資産の「ソフトウェア」は、前第3四半期連結会計期間末では無形固定資産の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間末において金額の重要性が増したため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間末の「ソフトウェア」は2,528百万円であります。</p> <p>3. 投資その他の資産の「繰延税金資産」は、前第3四半期連結会計期間末では投資その他の資産の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間末において重要性が増したため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間末の「繰延税金資産」は6,292百万円であります。</p> <p>4. 流動負債の「未払費用」は、前第3四半期連結会計期間末では流動負債の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間末において重要性が増したため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間末の「未払費用」は5,456百万円であります。</p>

当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日至平成21年12月31日)	
(四半期連結損益計算書関係)	
1. 特別利益の「関係会社株式売却益」は、前第3四半期連結会計期間では特別利益の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間において特別利益総額の100分の20を超えたため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間の「関係会社株式売却益」は0百万円であります。	
2. 特別損失の「投資有価証券評価損」は、前第3四半期連結会計期間では特別損失の「その他」に含めて表示しておりましたが、当第3四半期連結会計期間において特別損失総額の100分の20を超えたため、区分掲記いたしました。なお、前第3四半期連結会計期間の「投資有価証券評価損」は222百万円であります。	

【簡便な会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)	
1 一般債権の貸倒見積高の算定方法	一部の連結子会社は、当第3四半期連結会計期間末の貸倒実績率等が前連結会計年度末に算定したものと著しい変化がないと認められるため、前連結会計年度末の貸倒実績率等を使用して貸倒見積高を算定しております。
2 棚卸資産の評価方法	当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。 また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。
3 固定資産の減価償却費の算定方法	固定資産の年度中の取得、売却又は除却等の実績を反映し年間償却予定額を期間按分する方法によっております。 なお、定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。
4 法人税等並びに繰延税金資産及び繰延税金負債の算定方法	一部の連結子会社は、法人税等の納付税額の算定に関しては、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定する方法によっております。 繰延税金資産の回収可能性の判断に関しては、前連結会計年度末以降に経営環境等、かつ、一時差異等の発生状況に著しい変化がないと認められるので、前連結会計年度において使用した将来の業績予測やタックス・プランニングを利用する方法によっております。

【四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

該当事項はありません。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日至平成21年12月31日)	
コーポレートベンチャーキャピタル事業からの撤退	
コーポレートベンチャーキャピタル事業を前連結会計年度末で撤退したことに伴い、期首時点において、「営業投資有価証券」(流動資産)5,133百万円を「投資有価証券」(投資その他の資産)4,088百万円、「関係会社株式」(投資その他の資産)1,044百万円に、「繰延税金負債」(流動負債)234百万円を「繰延税金負債」(固定負債)に、それぞれ振替えております。これに伴い、従来、コーポレートベンチャーキャピタル事業における有価証券の売却額を売上高として計上し、売却した有価証券の帳簿価額を売上原価として計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より有価証券の売却損益を純額で特別損益に計上する方法に変更いたしました。	
この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高が358百万円、売上原価が346百万円、売上総利益および営業利益が12百万円、それぞれ減少しております。また、受取配当金(営業外収益)が2百万円、投資事業組合損失(営業外費用)が7百万円、投資有価証券売却益(特別利益)が73百万円、その他特別利益が31百万円、投資有価証券評価損(特別損失)が86百万円、関係会社株式売却損(特別損失)が2百万円、それぞれ増加しております。	

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、11,505百万円であります。</p> <p>2 当座貸越契約および貸出コミットメントライン契約 当座貸越極度額および 貸出コミットメントの総額 13,250百万円 借入実行残高 550百万円 差引額 12,700百万円</p> <p>3 のれんおよび負ののれんの表示 のれんおよび負ののれんは相殺表示しております。相殺前の金額は次の通りであります。 のれん 1,305百万円 負ののれん 124百万円 差引額 1,180百万円</p> <p>4 偶発債務 当社は、平成19年8月3日ジーイーキャピタルリーシング株式会社から、ASP型CADソフトウェアの販売取引に関して、約19億円の売買代金返還訴訟を提起され、また、同取引に関与した当社他5社に対して約58億円の損害賠償請求訴訟を提起されました。 なお、約19億円の訴訟と約58億円の訴訟は、別訴になっておりますが、事実関係は、19億円の限度において、重複しております。 また、この取引は、最終ユーザーの元社員の詐欺行為が発端となっており、最終ユーザーがジーイーキャピタルリーシング株式会社との契約行為を否認したことにより、同社への販売者である当社および他2社ならびに最終ユーザーに対して訴訟を提起したものであります。</p>	<p>1 有形固定資産の減価償却累計額は、10,475百万円であります。</p> <p>2 当座貸越契約および貸出コミットメントライン契約 当座貸越極度額および 貸出コミットメントの総額 13,250百万円 借入実行残高 3,050百万円 差引額 10,200百万円</p> <p>3 のれんおよび負ののれんの表示 のれんおよび負ののれんは相殺表示しております。相殺前の金額は次の通りであります。 のれん 1,665百万円 負ののれん 118百万円 差引額 1,546百万円</p> <p>4 偶発債務 同左</p>

(四半期連結損益計算書関係)

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。
広告宣伝費 652百万円	貸倒引当金繰入額 20百万円
役員報酬 680百万円	広告宣伝費 266百万円
給与賞与 9,327百万円	役員報酬 588百万円
賞与引当金繰入額 318百万円	給与賞与 8,131百万円
求人費 539百万円	賞与引当金繰入額 267百万円
地代家賃 1,325百万円	退職給付費用 191百万円
減価償却費 485百万円	求人費 73百万円
	地代家賃 1,192百万円
	減価償却費 347百万円

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。	1 販売費及び一般管理費のうち、主要な費目および金額は次のとおりであります。
貸倒引当金繰入額 7百万円	貸倒引当金繰入額 20百万円
広告宣伝費 292百万円	広告宣伝費 78百万円
役員報酬 223百万円	役員報酬 186百万円
給与賞与 2,852百万円	給与賞与 2,493百万円
賞与引当金繰入額 586百万円	賞与引当金繰入額 280百万円
求人費 123百万円	退職給付費用 64百万円
地代家賃 479百万円	求人費 18百万円
減価償却費 174百万円	地代家賃 372百万円
	減価償却費 114百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成20年12月31日現在)	1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成21年12月31日現在)
現金及び預金勘定 17,186百万円	現金及び預金勘定 19,347百万円
有価証券勘定 17百万円	預入期間が3か月を超える 定期預金 556百万円
計 17,204百万円	現金及び現金同等物 18,790百万円
預入期間が3か月を超える 定期預金 223百万円	
現金及び現金同等物 16,980百万円	

(株主資本等関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日
至平成21年12月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	48,794,046

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当第3四半期 連結会計期間末
普通株式(株)	9,480,477

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

該当事項はありません。

5 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	情報サービス 事業 (百万円)	コーポレート ベンチャー キャピタル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	41,240	310	41,550		41,550
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	0		0	(0)	
計	41,240	310	41,550	(0)	41,550
営業利益又は 営業損失()	2,301	2,184	117	(1,290)	1,173

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な内容

- (1) 情報サービス事業.....情報処理サービス業務、ソフトウェア開発業務、商品・製品の販売
- (2) コーポレートベンチャーキャピタル事業.....事業開発投資事業

当第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

前連結会計年度末で、コーポレートベンチャーキャピタル事業から撤退し、単一セグメントとなったため、記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自 平成20年4月1日 至 平成20年12月31日)

	情報サービス 事業 (百万円)	コーポレート ベンチャー キャピタル事業 (百万円)	計 (百万円)	消去 又は全社 (百万円)	連結 (百万円)
売上高					
(1) 外部顧客に対する 売上高	123,806	1,399	125,206		125,206
(2) セグメント間の 内部売上高又は振替高	0		0	(0)	
計	123,807	1,399	125,206	(0)	125,206
営業利益又は 営業損失()	6,705	3,025	3,680	(3,994)	314

(注) 1 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2 各事業の主な内容

- (1) 情報サービス事業.....情報処理サービス業務、ソフトウェア開発業務、商品・製品の販売
- (2) コーポレートベンチャーキャピタル事業.....事業開発投資事業

3 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号)を第1四半期連結累計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。

この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益は、「情報サービス事業」で5百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成21年4月1日 至 平成21年12月31日)

前連結会計年度末で、コーポレートベンチャーキャピタル事業から撤退し、単一セグメントとなったため、記載を省略しております。

【所在地別セグメント情報】

前第3四半期連結会計期間(自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア (百万円)	計(百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	38,976	334	2,238	41,550		41,550
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	32	19	400	452	(452)	
計	39,009	354	2,639	42,003	(452)	41,550
営業利益又は 営業損失()	1,806	1,810	30	34	(1,138)	1,173

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 「アジア」に属する国および地域は、中国、韓国およびタイであります。

当第3四半期連結会計期間(自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア (百万円)	計(百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	34,748	62	2,424	37,235		37,235
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	29	9	357	396	(396)	
計	34,778	71	2,781	37,632	(396)	37,235
営業利益又は 営業損失()	2,225	5	62	2,157	(1,565)	592

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 「アジア」に属する国および地域は、中国、韓国およびタイであります。

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア (百万円)	計(百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	115,347	1,320	8,538	125,206		125,206
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	116	65	1,331	1,514	(1,514)	
計	115,464	1,386	9,870	126,720	(1,514)	125,206
営業利益又は 営業損失()	5,616	2,114	247	3,749	(4,063)	314

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 「アジア」に属する国および地域は、中国、韓国およびタイであります。
 3 「連結財務諸表作成における在外子会社の会計処理に関する当面の取扱い」(実務対応報告第18号)を第1四半期連結累計期間から適用し、連結決算上必要な修正を行っております。
 この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、営業利益は、「アジア」で5百万円減少しております。

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

	日本 (百万円)	アメリカ (百万円)	アジア (百万円)	計(百万円)	消去又は 全社(百万円)	連結(百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する 売上高	104,840	203	7,389	112,433		112,433
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	119	23	769	913	(913)	
計	104,960	227	8,158	113,346	(913)	112,433
営業利益又は 営業損失()	7,292	9	207	7,094	(4,586)	2,508

- (注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。
 2 「アジア」に属する国および地域は、中国、韓国およびタイであります。
 3 「工事契約に関する会計基準」(企業会計基準第15号 平成19年12月27日)及び「工事契約に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第18号 平成19年12月27日)を第1四半期連結累計期間より適用しております。
 この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、売上高は、「日本」で230百万円、「アジア」で56百万円それぞれ増加しております。また、「日本」で営業利益が88百万円増加し、「アジア」で営業損失が23百万円減少しております。
 4 在外子会社等の収益及び費用については、第1四半期連結累計期間より期中平均の直物為替相場により円貨に換算する方法に変更しております。
 この変更に伴い、従来の方法によった場合に比べて、売上高は、「アジア」で122百万円減少しております。また、「消去又は全社」で営業損失が6百万円増加しております。

【海外売上高】

前第3四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	アメリカ	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	787	1,978	5	2,770
連結売上高(百万円)				41,550
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	1.9	4.8	0.0	6.7

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国または地域

(1)アメリカ・・・アメリカ

(2)アジア・・・韓国、中国、タイ

(3)その他・・・欧州

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

当第3四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

前第3四半期連結累計期間(自平成20年4月1日至平成20年12月31日)

	アメリカ	アジア	その他	計
海外売上高(百万円)	1,950	7,798	38	9,787
連結売上高(百万円)				125,206
連結売上高に占める 海外売上高の割合(%)	1.6	6.2	0.0	7.8

(注) 1 国または地域の区分は、地理的近接度によっております。

2 各区分に属する主な国または地域

(1)アメリカ・・・アメリカ

(2)アジア・・・韓国、中国、タイ

(3)その他・・・欧州

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

当第3四半期連結累計期間(自平成21年4月1日至平成21年12月31日)

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しております。

(有価証券関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)

時価のあるその他有価証券が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該有価証券の四半期連結貸借対照表計上額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められません。

その他有価証券で時価のあるもの

区分	取得原価(百万円)	四半期連結貸借対照表計上額(百万円)	差額(百万円)
株式	70	218	147
計	70	218	147

(デリバティブ取引関係)

当第3四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)

対象物の種類が金利および通貨のデリバティブ取引が、企業集団の事業の運営において重要なものとなっており、かつ、当該取引の契約額その他の金額に前連結会計年度の末日に比べて著しい変動が認められません。

デリバティブ取引の契約額等、時価および評価損益

対象物の種類	種類	契約額等(百万円)	時価(百万円)	評価損益(百万円)
金利	金利スワップ	200	0	0
通貨	通貨スワップ	2,063	391	391
合計		2,263	391	391

(注) 1 時価の算定方法

取引先の金融機関等から提示された価格等に基づき算定しております。

2 ヘッジ会計が適用されているデリバティブ取引は除いております。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1 1株当たり純資産額

当第3四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
900.51円	871円39銭

(注) 1株当たり純資産額の算定上の基礎

項目	当第3四半期 連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年3月31日)
純資産の部の合計額(百万円)	40,040	39,560
普通株式に係る純資産額(百万円)	35,402	34,253
差額の主な内訳(百万円)		
新株予約権		0
少数株主持分	4,638	5,306
普通株式の発行済株式数(株)	48,794,046	48,794,046
普通株式の自己株式数(株)	9,480,477	9,484,713
1株当たり純資産額の算定に用いられた普通株式 の数(株)	39,313,569	39,309,333

2 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

第3四半期連結累計期間

前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額 26円35銭 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 26円34銭	1株当たり四半期純利益金額 26円24銭 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額

(注) 1. 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成20年4月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(百万円)	1,042	1,031
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	1,042	1,031
普通株式の期中平均株式数(株)	39,558,592	39,312,270
普通株式増加数(株)	13,560	
(うち新株予約権(株))	(13,560)	()
(うち新株予約権付社債(株))	()	()
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当 たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜 在株式について前連結会計年度末から重要な変動 がある場合の概要		普通株式 新株予約権4銘柄 600,200株

第3四半期連結会計期間

前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)		当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	53円65銭	1株当たり四半期純利益金額	15円67銭
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	円

(注) 1. 前第3四半期連結会計期間および当第3四半期連結会計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎

項目	前第3四半期連結会計期間 (自平成20年10月1日 至平成20年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (自平成21年10月1日 至平成21年12月31日)
四半期連結損益計算書上の四半期純利益(百万円)	2,109	616
普通株式に係る四半期純利益(百万円)	2,109	616
普通株式の期中平均株式数(株)	39,309,389	39,313,660
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含まれなかった潜在株式について前連結会計年度末から重要な変動がある場合の概要		普通株式 新株予約権2銘柄 418,600株

(重要な後発事象)

ダブルクリック株式会社との株式交換および合併

平成22年1月25日開催の取締役会において、当社を株式交換完全親会社、当社の子会社であるダブルクリック株式会社(以下「ダブルクリック」といいます。)を株式交換完全子会社とする株式交換契約を締結し、当該契約に基づき株式交換をすること、ならびに、当社を吸収合併存続会社、ダブルクリックを吸収合併消滅会社とする吸収合併契約を締結し、当該契約に基づき吸収合併をすることについて決議の上、株式交換契約および合併契約を締結いたしました。株式交換は、平成22年3月8日に開催予定のダブルクリックの臨時株主総会における承認が得られることを条件として実施される予定であります。また、合併は、株式交換の効力が発生することおよび平成22年3月19日開催予定の当社の臨時株主総会の承認が得られることを条件として実施される予定であります。株式交換および吸収合併の内容は、下記のとおりであります。

1 株式交換および吸収合併の目的

テクノロジープロバイダーであるダブルクリックの有するテクノロジーと、アウトソーサーである当社の有する運用力を融合させることによって、グループ・シナジーを最大化させ、企業価値を向上させることを目的とするものであります。

2 株式交換および合併の日程

株式交換契約および合併契約承認取締役会開催日

平成22年1月25日

株式交換契約および合併契約締結日

平成22年1月25日

合併契約承認臨時株主総会開催日

平成22年3月19日(予定)

株式交換効力発生日

平成22年3月29日(予定)

合併効力発生日

平成22年3月30日(予定)

3 株式交換に係る割当

当社は、ダブルクリックとの株式交換に際して、当社が保有する自己株式1,871,748株を、基準時のダブルクリックの株主名簿に記載または記録された株主に対し、その所有するダブルクリックの普通株式1株に対し当社普通株式27株を割当交付する予定であります。ただし、当社が保有するダブルクリックの普通株式については、割当交付いたしません。

4 合併に係る割当

合併は、当社を完全親会社、ダブルクリックを完全子会社とする株式交換の効力発生を条件としているため、当該合併の効力発生日の前日において、ダブルクリックが当社の完全子会社となっていることを前提としております。従いまして、合併に際して、株式その他の金銭等の割当では行いません。

5 被合併会社となる会社の概要

(1) 会社の名称

ダブルクリック株式会社

(2) 事業の内容

インターネット広告配信、メールマーケティング、モバイルマーケティング、ウェブサイト分析を基盤とするインターネットマーケティングソリューションの開発および販売

(3) 当社との関係

当社はダブルクリックの発行済株式の60.66%を保有しており、ダブルクリックは当社の連結子会社であります。

事業の譲渡および特別利益の計上

平成22年1月25日に、当社およびダブルクリックならびにグーグル・インク(以下「米国グーグル社」といいます。)又はその子会社(以下「米国グーグル社ら」と総称します。)は、当社および米国グーグル社間の競争避止義務契約等を終了し同契約に基づく当社の権利を消滅させ、かつ本事業譲渡に関連する当社保有の関連契約を米国グーグル社らに譲渡すること、およびダブルクリックの営むDART事業を米国グーグル社らに譲渡し、ダブルクリックと米国グーグル社間のDART契約等を終了させること(以下「本件取引」といいます。)に合意しました。当社及びダブルクリックは、かかる本件取引の対価として、米国グーグル社らから合計金45百万米国ドルの支払いを受ける予定です。これにより当社連結決算において、特別利益として約3,700百万円を計上する見通しであります。

1 事業譲渡等の目的

米国グーグル社らにDART事業を譲渡し、テクノロジー事業に経営資源を集中させるためであります。

2 譲渡等の日程

平成22年1月25日 事業譲渡等契約締結日

平成22年3月31日 事業譲渡等実行日(予定)

3 譲渡する資産・負債の項目

事業譲渡等実行日付で譲渡される資産は、DART事業に関する知的財産権、契約、その他のDART事業に係る技術的情報等を含みます。当社から米国グーグル社らに対して承継される契約における一定の未履行の債務を除き、米国グーグル社らは、当該譲渡により負債を承継しません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成21年2月13日

トランス・コスモス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 恩 田 勲 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小 川 一 夫 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 川 豪 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトランス・コスモス株式会社の平成20年4月1日から平成21年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成20年10月1日から平成20年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成20年4月1日から平成20年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トランス・コスモス株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が、すべての重要な点において認められなかった。

追記情報

重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成21年2月9日開催の取締役会においてコーポレートベンチャーキャピタル事業から撤退を決議した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月12日

トランス・コスモス株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	恩 田 勲 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	小 川 一 夫 印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	中 川 豪 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているトランス・コスモス株式会社の平成21年4月1日から平成22年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成21年10月1日から平成21年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成21年4月1日から平成21年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、トランス・コスモス株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第3四半期連結会計期間及び第3四半期連結累計期間の経営成績並びに第3四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が、すべての重要な点において認められなかった。

追記情報

- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社は平成22年1月25日付で、会社を株式交換完全親会社としダブルクリック株式会社を株式交換完全子会社とする株式交換契約、会社を吸収合併存続会社としダブルクリック株式会社を吸収合併消滅会社とする合併契約を締結した。
- 重要な後発事象に記載されているとおり、会社及びダブルクリック株式会社並びにGoogle Inc.は平成22年1月25日付で、事業譲渡契約を締結した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。